



府中市立府中第六中学校

令和5年11月9日 第7号

六中だより

～学校教育目標～
“学力と情操”
“健康と忍耐力”
“勤労と責任”

「自分で体験することが学びの基本」

校長 佐藤 光宏

「他人の心の動きは、自分の体験に照らしてしか理解できない」。これは、ドイツの教育学者であり、哲学者、心理学者でもある、シュプラングー博士（1882～1963）の言葉です。博士は、自分で実際に体験したことでないと自然の豊かさや人の心の様子は理解しにくいと述べています。

確かに、私たちは、実際に森林の中を歩くとき、草木の香りを感じ、自然の素晴らしさを知ります。人を思う体験があつてはじめて悲しさや嬉しい気持ちがわかります。文章や言葉で自然や人間の尊さを言われても実感はしにくいのです。

さらに、人は、地道に積み重ねて体験したことは真にわかるとも言われています。たとえば、テスト勉強で塾のプリントや参考書にうまくまとめてあるものを付け焼刃で覚えても、テストが終わるとすぐに忘れてしまいます。ところが、自分でよく考え工夫してまとめた内容は不思議とよく覚えていたり、他の場所で役に立ったりすることがあります。

これは、自分で苦労して地道に積み重ねて繰り返した「体験」が人間の真の学力や対応力・判断力として根つき、応用力にもなっている場合があるからです。

ある動物園の園長さんが、飼育のための栄養やビタミンが豊富で簡単に食べられるスペシャルフードを開発したところ、動物たちは食欲が落ちるだけでなく、食べる気持ちがなくなってしまったといっています。どのような動物も、食べ物は皮をむいたり、噛んだり、いろいろと試行錯誤しながら、たくさんの「体験」を通して、食べる喜びや食を楽しんでいることに気付いたそうです。人間も同じで、さまざまな学びに対して苦労や工夫するなどして、自分で納得して楽しんでいく「体験」があつて、はじめて自分の多様な能力となっていくわけです。また、人間には、体験を基にした予測・予知能力があることから、体験したことから飛躍した学習成果も生まれる場合があります。

中学校時代が人生の中でもとくに輝いていたと振り返る人が多いのは、たくさんの価値ある「体験」があるからだと言われています。すべて人生の思い出として永遠に残る貴重な体験を積み重ねて、真の学習を積み上げてほしいと思います。生徒の皆さんのたくさんのよき体験を期待しています。



道徳授業地区公開講座

今年度は「よりよく生きる喜び」をテーマに、各学年で教材を選び授業に臨みました。生徒たちは、先生方の発問に対して、意欲的に考え、答える姿が見られました。また、授業後の意見交換会には保護者の方々や地域の方々にご参加いただき、貴重なご意見をいただき有意義な会となりました。ありがとうございました。

道徳担当 山田浩一

合唱コンクールの延期について

10月18日に予定していた合唱コンクールは、インフルエンザ等による学級閉鎖のため、3月14日に延期となりました。

部活動等の実績



サッカー部

第64回 府中市民体育大会 秋季大会 優勝



卓球部

第45回府中市公立中学校卓球大会 優勝 1年男子A

第45回府中市公立中学校卓球大会 第3位 1年男子B



バドミントン部

第64回 府中市民体育大会 秋季大会

バドミントン競技 1年男子 シングルス 準優勝



陸上部

第71回 はちおうじT&Fトライアル

1年女子 100m 第6位 19秒45



女子テニス部

第64回 府中市民体育大会 秋季大会 女子ダブルス 優勝

1年女子

東京都中学校テニス選手権大会 出場

女子ダブルス 1年女子&2年女子

女子シングルス 1年女子、2年女子



令和5年度関東地区乗馬スポーツ少年団選手権大会

初級馬場馬術競技 第4位 2年男子



第64回府中市民体育大会 夏季大会

クロス障害飛越競技 第3位 2年男子